

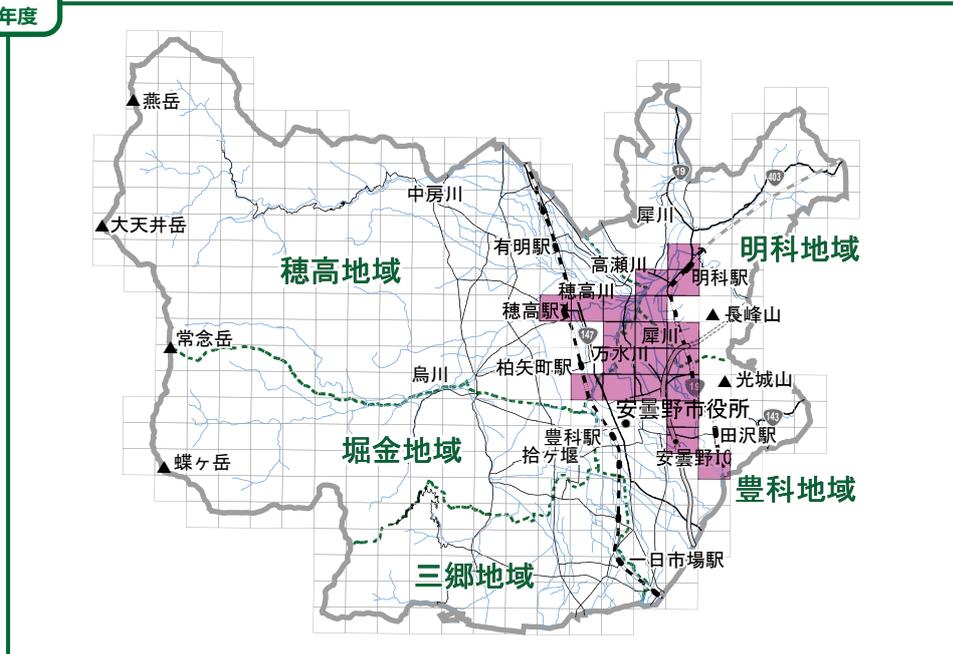
植 物 (オオカワヂシャ)

2007 年度調査対象外

オオカワヂシャは、犀川周辺の平地で生育が確認されています。特に、御宝田遊水池付近の水路沿いや万水川では継続して確認されています。特定外来生物に指定されており、在来種のカワヂシャへの影響が心配されています。日当たりの良い水辺を好むことから、今後も市内周辺の水路沿いなどで繁茂する可能性があります。



2012 年度



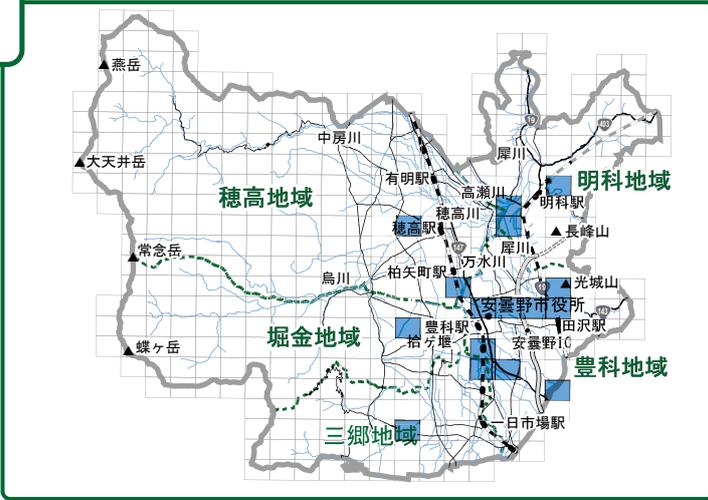
2018 年度



調査結果 (注意すべき生きもの)

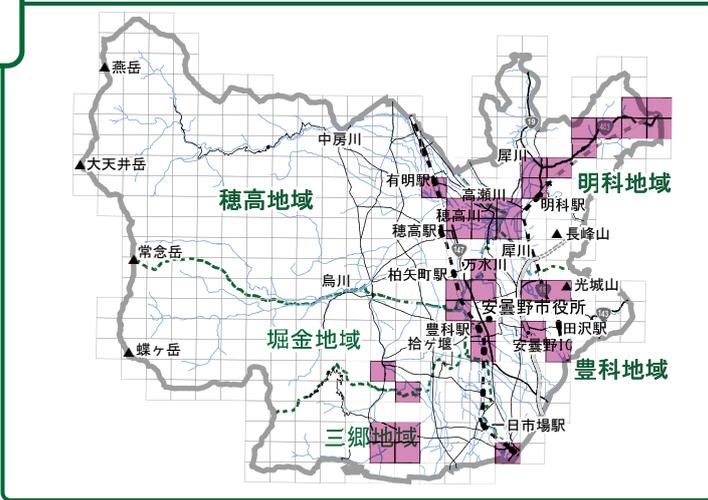
植 物 (アレチウリ)

2007
年度

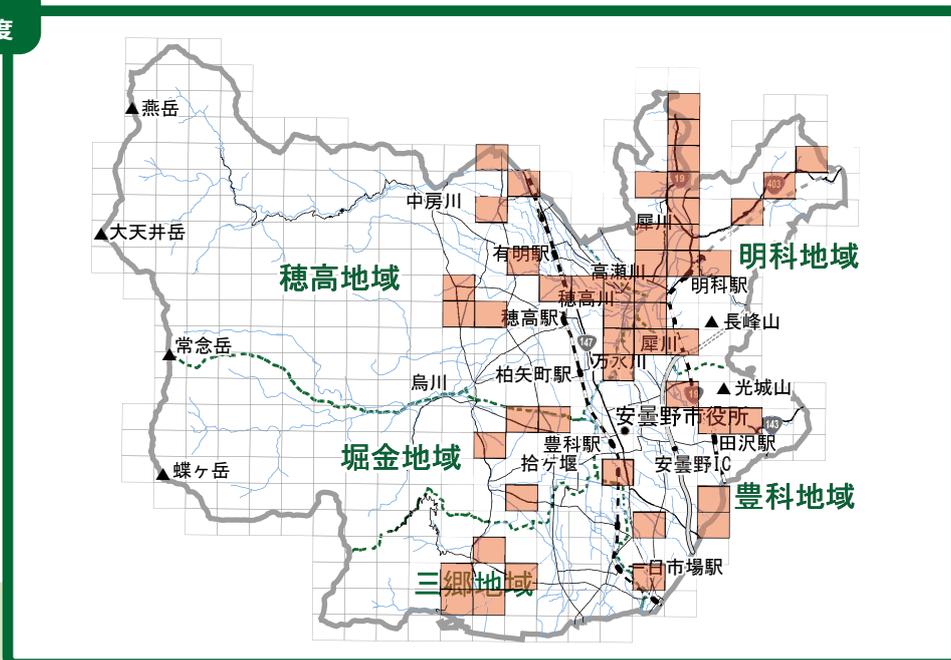


アレチウリは、平地の河川沿いを中心に生育が確認されています。今回の調査では、これまでで最も多くの場所で確認の報告がありました。繁殖力が非常に高く分布が拡大したことや、判別できる人が増えたことが確認場所の増加につながった可能性もあります。特定外来生物であり、今後、駆除の効果による減少が期待されます。

2012
年度



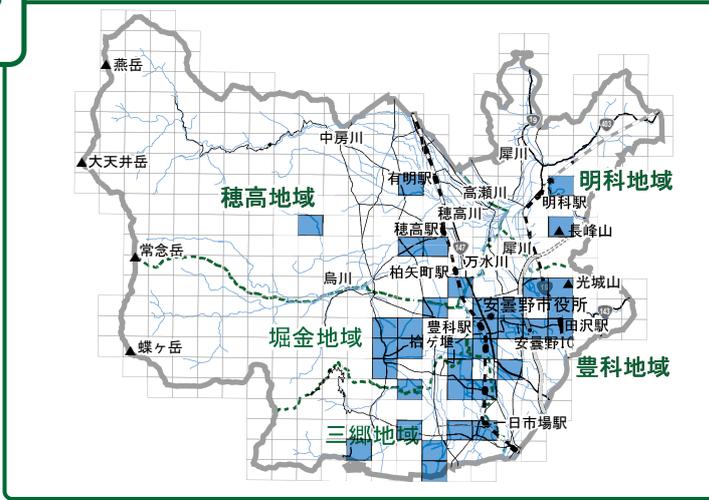
2018
年度



調査結果 (注意すべき生きもの)

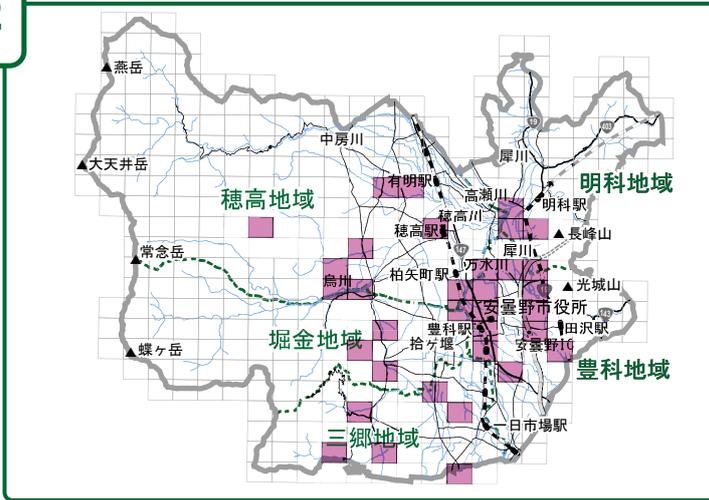
植 物 (セイヨウタンポポ)

2007
年度

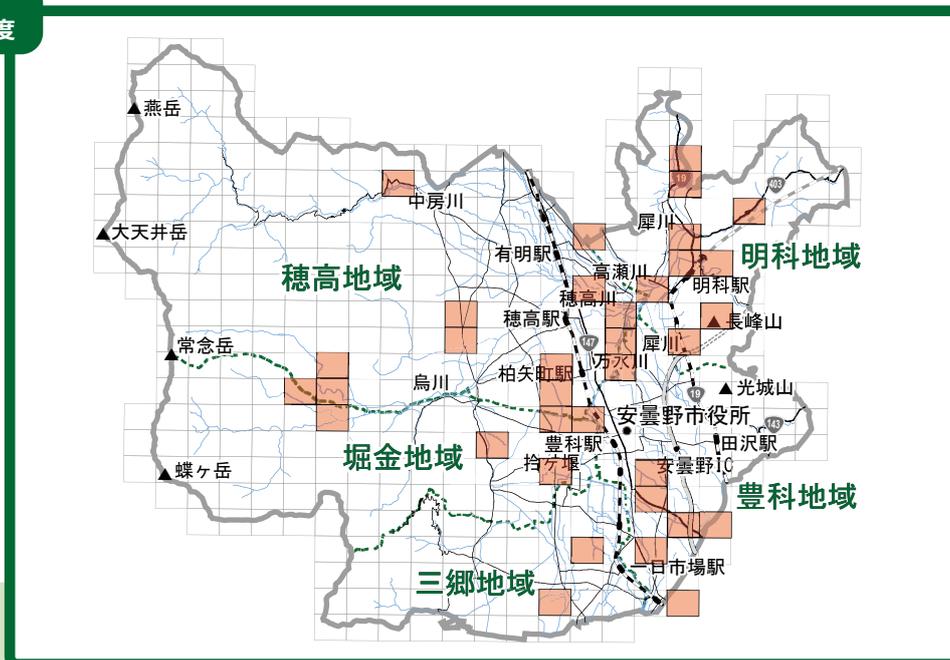


セイヨウタンポポは、平地の広い範囲で生育が確認されています。今回の調査では、これまで報告の少なかった明科地域でも多く報告があり、生育場所が広がっている可能性があります。

2012
年度



2018
年度



調査結果 (注意すべき生きもの)

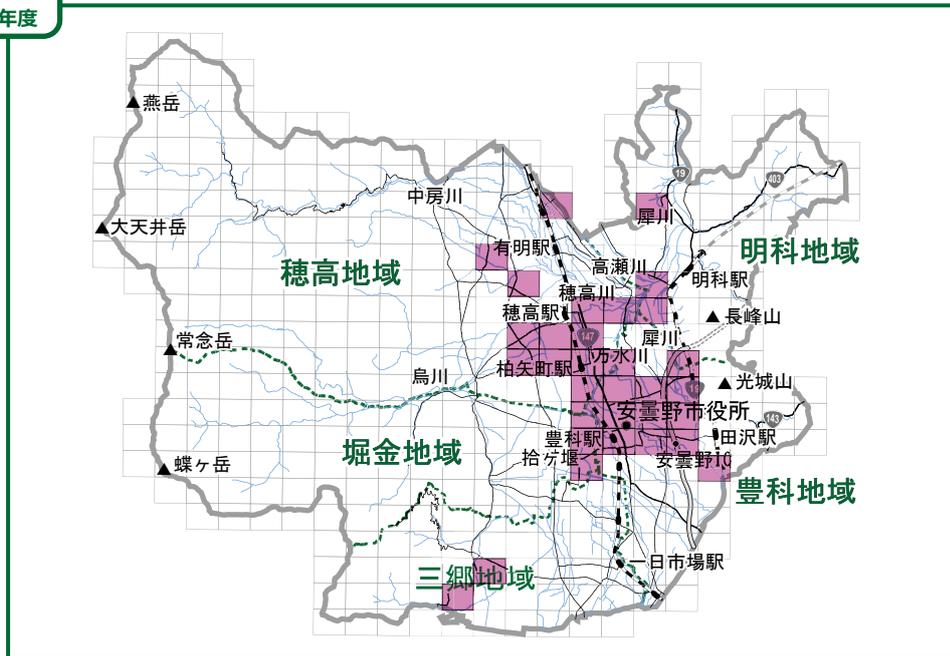
植 物 オオキンケイギク

2007 年度調査対象外

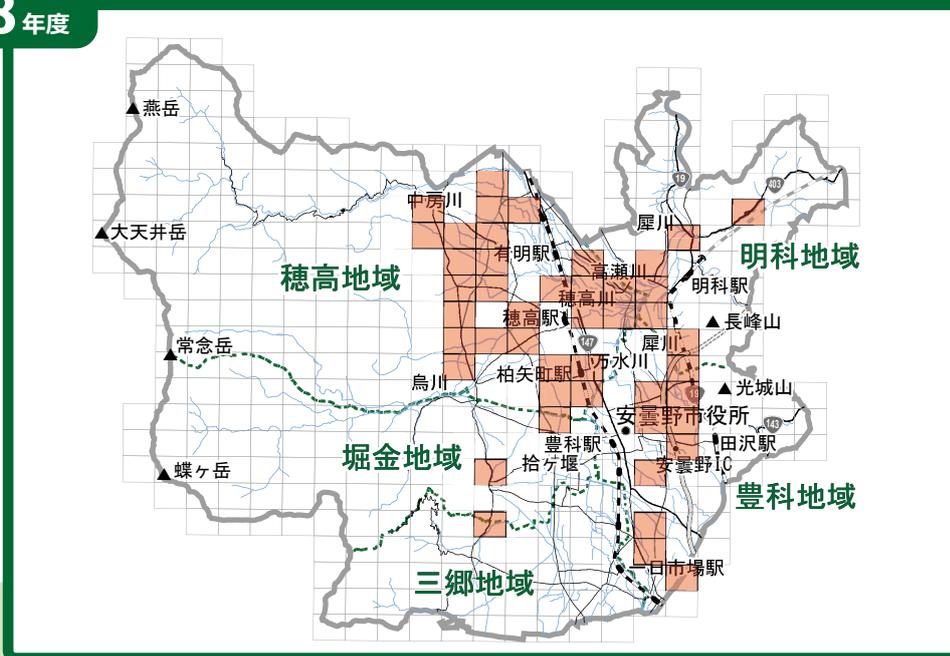
オオキンケイギクは、平地を中心に広い範囲で生育が確認されています。今回の調査では、2012 年度調査では確認の報告がなかった穂高地域の山麓部などでも多く確認されており、生育場所が広がっている可能性があります。黄色のきれいな花が咲きますが、特定外来生物であり、駆除等による減少が期待されます。



2012 年度



2018 年度



調査結果 (注意すべき生きもの)

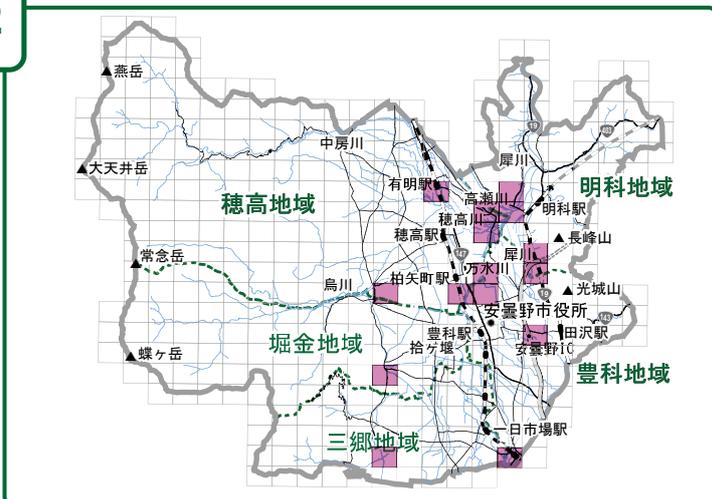
植物 (オオブタクサ)

2007
年度



オオブタクサは、主に市内の中・南部の平地で生育が確認されていましたが、今回の調査では、穂高・明科地域の市町村境界付近でも確認の報告がありました。市内の生育状況は大きな変化はないか、増加しつつあると考えられます。

2012
年度



2018
年度



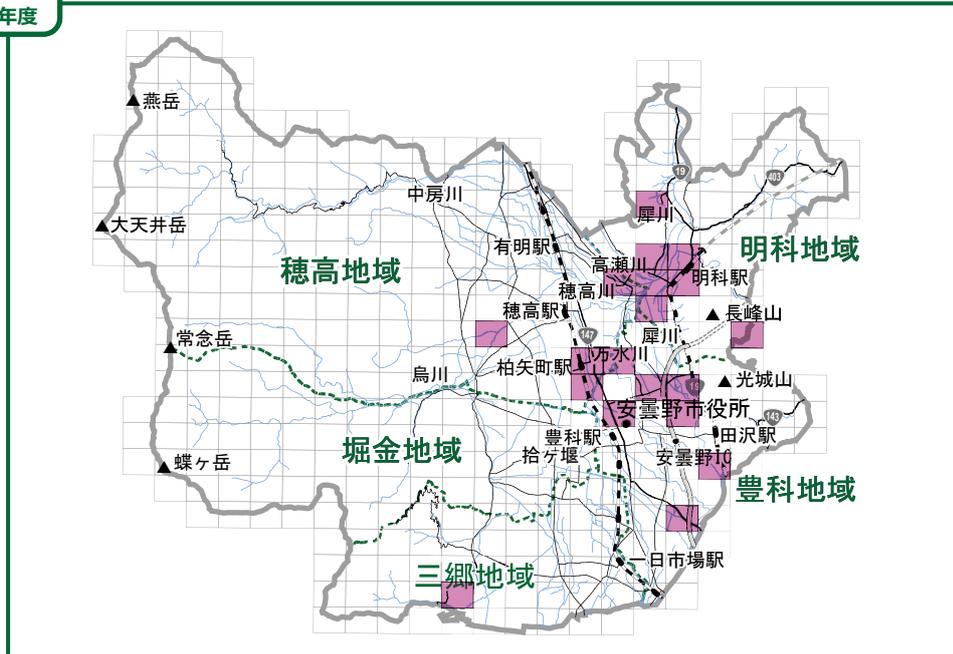
植 物 (ナヨクサフジ)

2007 年度調査対象外

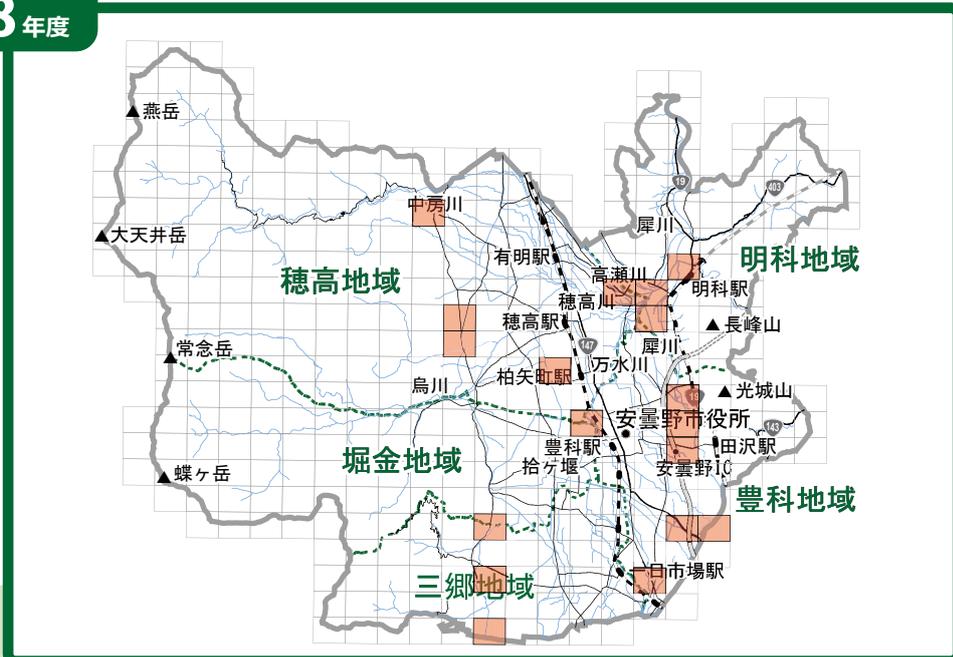
ナヨクサフジは、犀川周辺の広い範囲で生育が確認されています。
 今回の調査では、穂高・三郷地域の山麓部でも確認されており、
 市内の生育状況は大きな変化はないが、増加しつつあると考えら
 れます。



2012 年度



2018 年度



水生生物 コモチカワツボ

2007 年度調査対象外

コモチカワツボは、犀川周辺の一部で生息が確認されていますが、とても小さく確認しづらい種であるため、さらに広い範囲に生息している可能性があります。海外から持ち込まれた魚類などに混じって移入したと考えられており、水田や水路などに生息することが多いため、今後の生息状況を見守ることが望まれます。



2012 年度



2018 年度



調査結果 (注意すべき生きもの)

昆虫類 アオマツムシ

2007
年度



アオマツムシは、平地で生息が確認されていますが、記録は少なく今回の調査では豊科地域のみで確認されています。長野県内では地球温暖化が原因と考えられる気温の上昇とともに生息する地域が広がっていることから、今後市内での確認記録が増える可能性があります。

2012
年度



2018
年度



調査結果 (注意すべき生きもの)

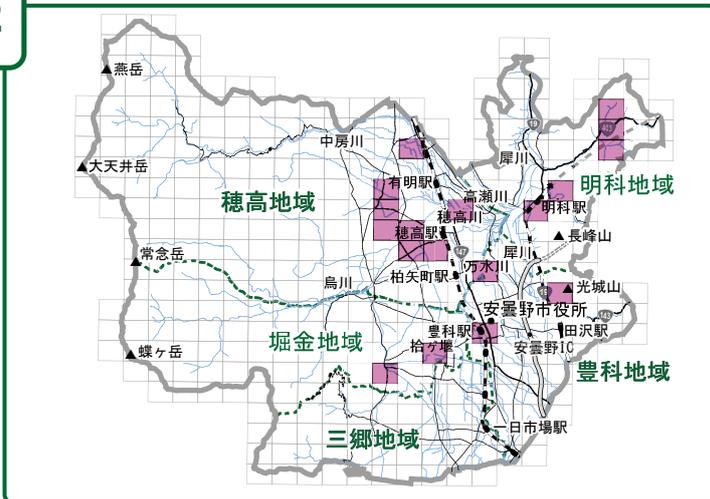
哺乳類 (ハクビシン)

2007
年度



ハクビシンは、2007年度は、堀金・明科地域の山地の一部で生息が確認されていましたが、2012・2018年度には、山麓部や平地でも確認されました。主に山麓部で多く、今後も広がる可能性があります。農業被害のほか、空き家などに住み着いて被害を出すこともあるため生息状況を見守っていくことが望まれます。

2012
年度



2018
年度



哺乳類 アライグマ

2007年度調査対象外

アライグマは、2012・2018年度ともに生息確認の報告はありませんでした。しかし、安曇野市と隣接する松本市や筑北村では過去に生息が確認されているほか、他地域では、農業被害や家屋への被害も報告されており、今後の生息状況に注意していくことが望まれます。



2012年度



2018年度

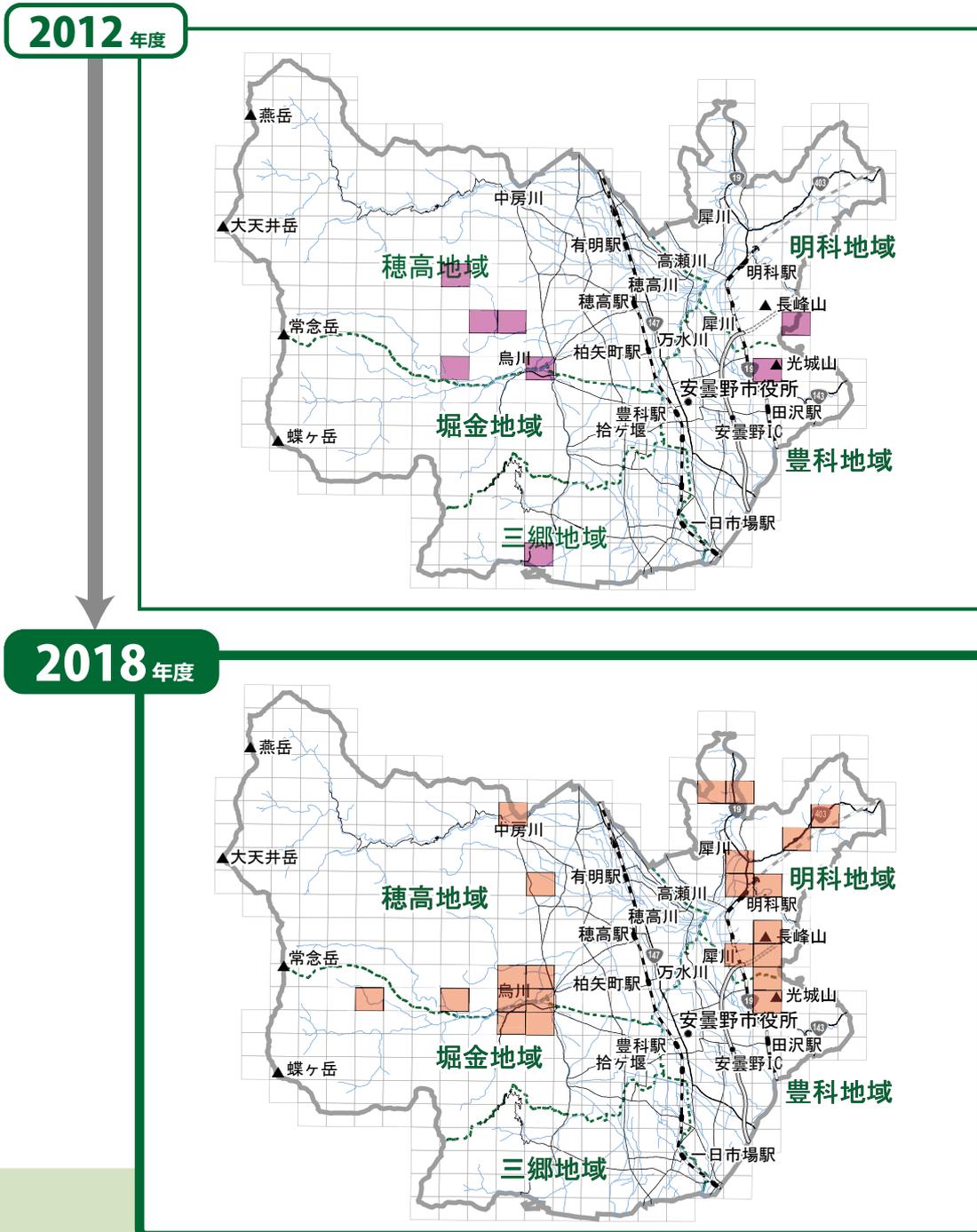


調査結果 (注意すべき生きもの)

哺乳類 (ニホンイノシシ)

2007年度調査対象外

ニホンイノシシは、豊科・穂高地域の山地や山麓部の河川沿いなどで生息が確認されていましたが、今回の調査では、さらに明科地域でも複数確認されました。イノシシは出産数が多く個体数が増加しやすい種であるため、今後も生息範囲が広がっていく可能性があります。



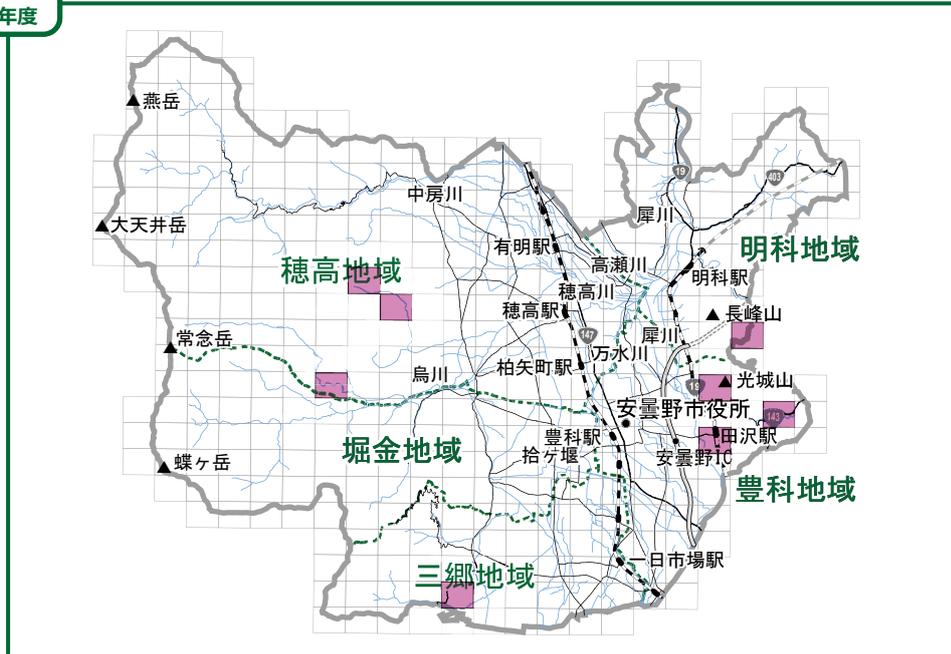
哺乳類 (ニホンジカ)

2007年度調査対象外

ニホンジカは、豊科・穂高地域の山地などで生息が確認されていましたが、今回の調査では、より山麓部に近い場所のほか、明科地域でも複数確認されました。長野県内でもニホンジカの増加は懸念されており、市内でも増加していく可能性があります。



2012年度



2018年度

